

6 西部地域のまちづくり方針

(1) 地域のあらし

位置・面積

- ・西部地域は小田原・厚木道路の西側に位置し、地域界の多くを秦野市・中井町・大磯町との市町境としています。かつては土沢村と金目村に属し、土沢村は昭和31年9月に、金目村は昭和32年10月に平塚市に編入されました。
- ・地域の面積は1,919.9haで全市の約28%を占めます。うち北金目地区は375.2ha、南金目地区は387.3ha、土沢地区は1,157.4haです。
- ・北金目地区はみずほ小学校区、南金目地区は金目小学校区、土沢地区は吉沢小と土屋小学校区が含まれます。



人口・土地の利用

- ・人口は全市の約8%を占めます。北金目地区と土屋地区は減少、南金目地区はやや減少傾向にあります。(平成17年国勢調査)
- ・市街化区域は、地域の約10%を占め、北金目地区の一部と南金目・土沢両地区の一部に住宅地がまとまってあり、その他は広大な農地と丘陵が占めます。
- ・金目川の水辺から南北に広がる田園のなかに、ゆとりある住宅地が形成されています。
- ・北金目地区は小田急小田原線の東海大学前駅に近く、日常の最寄り駅としての利用が多く、市域を越えた地域生活圏が形成されています。
- ・五領ヶ台地区や土地区画整理事業が進む真田・北金目地区、真田地区などでは、地区計画により良好な住環境の形成が進められています。

地域の資源

- ・金目川や里山を中心に「金目川と観音堂」「七国峠・遠藤原」「霧降りの滝・松岩寺」などの平塚八景があり、本市の代表的な景勝地となっています。
- ・東海大学や神奈川大学、県農業技術センターなどの学術機関や研究所が立地しています。
- ・土沢地区を中心とする里山には、本市で最も貴重な自然が残っています。



霧降りの滝



住宅地(五領ヶ台)

(2) 地域の主な課題

道路と交通の課題

- ・平塚秦野線や吉沢・土屋線の一部区間では慢性的な渋滞が見られるため、その対応が課題です。また、歩行者や自転車利用者の空間不足が問題となっているところがあります。道路整備と共に交通安全施設の整備や改善が課題です。

住まい環境の課題

- ・人口が減少し地域社会としての維持が難しくなっている集落があります。日常必要な生活利便施設の充足などが課題です。

地域の資源をいかすための課題

- ・平塚八景を中心に地域の資源をつなぎ、観光やレクリエーションの場としていくことが課題です。
- ・市内に2つある大学の存在は貴重です。県農業技術センターも含め、これらがもつ専門性をいかした地域の活性化が課題です。
- ・農地や里山の荒廃が見られ、保全しながらもいかすための工夫が課題です。



東海大学のケヤキ並木



神奈川大学のイチョウ並木

(3) 地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

恵まれた自然や歴史資産をいかし地域を広くアピール
安心安全の道路と交通の確保による、便利な移動環境の確保
住民と大学などとの交流による地域活性化

将来像

恵まれた自然環境をいかして地域を活性化し、
交流の輪を次世代につなぐまち

先人が大切に守り培ってきた自然や歴史・文化が脈々と息づく西部地域は、住民と大学、都市住民との交流のなかで新たな活気を創出し、地域の貴重な資産を守り、いかし、次世代につなぐまちをめざします。

(4) 地域の分野別の方針

(4) - 1 道路と交通

道路一般

- ・八幡神社土屋線など、未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。
- ・安全で円滑な生活交通確保のため、吉沢・土屋線、金目・神戸線などは、歩道の設置や道路の新設、橋梁の整備や改善など、効果的な道路整備を進めます。
- ・真田地区及び真田・北金目地区の土地区画整理事業は、基盤整備と合わせて、その周辺部の幹線道路や生活道路などの整備を段階的に進めます。
- ・秦野中井インターチェンジアkses道路は、道路の位置など具体的な計画について検討します。

バス交通

- ・バス交通の円滑な走行や利便性向上のため、バス停の環境整備などを進めます。また、東西方向のバス網の形成に努めます。

歩行者空間、自転車利用環境

- ・歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間確保や交通安全施設などの環境整備を進めます。
- ・自転車利用環境の向上のため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。

(4) - 2 住まい環境

住宅地

- ・土地区画整理事業が進む北金目地区の住居系市街地や、金目川の南北に広がる南金目地区の住居系市街地、そして土沢地区のめぐみが丘は、戸建てを中心とした低層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。
- ・道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

近隣商業地や沿道市街地

- ・土地区画整理事業が進む真田・北金目地区や真田地区の中心部、上粕屋南金目線や東海大学駅前真田線、北金目真田線などの沿道一部、平塚秦野線の金目小学校付近には、地域生活に密着した店舗や事務所などの立地を誘導します。

集落地・農地

- ・土沢地区の集落地においては、日常必要な生活便利施設の立地の誘導を検討します。
- ・農地は、食糧供給や多面的な機能を有するためこれを維持及び保全し、さらに有効利用するため農業振興策を進めると共に、生産基盤の向上に努めます。また、市民との協働による利活用についても検討します。

公共公益施設

- ・びわ青少年の家や地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。

(4) - 3 景観やみどりと水辺

代表的な景観

- ・富士山や大山・丹沢の山並みへの眺望を確保し、季節の移ろいと開放感が感じられる、まとまりのある田園や里山景観を維持及び保全します。
- ・魅力ある散策ルートの充実など、人と自然がつくり出すみどりや里山景観の魅力や大切さを広めます。
- ・金目観音堂を始め地域の歴史を伝える社寺などを、地域のシンボルとして保全します。
- ・東海大学と神奈川大学は、ケヤキやイチョウ並木を始め、季節感のある景観を楽しむことのできる文教施設として、その空間をいかせるよう検討します。

みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・田園や里山は、農業生産の場であると共に、様々な生物のすみかにもなっています。身近なみどりや季節感あふれる風景であり、その多面的効用を果たすよう保全に努めます。
- ・金目川沿いの斜面緑地は、貴重なみどりとして保全に努めます。また、金目観音周辺は歴史や文化資源をいかし、みどりと水辺のふれあいスポットの形成に努めます。
- ・金目川の川辺は親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

公園や広場

- ・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。
- ・現在、スポーツ広場、多目的広場として利用されている県平塚配水池の上部については、交流やレクリエーションの場としての拠点性をさらに向上させるため、多目的利用の推進に努めます。

(5)地域の資源をいかした魅力づくりの方針

地域資源をつなぐ

- ・西部地域の平塚八景を始め、びわ青少年の家、スポーツ広場や多目的広場（県平塚配水池の上部利用）、学術機関や研究所などを拠点として、これらをつなぐ散策ルートを充実します。各拠点においては、地域の自然や景観を楽しむ場、環境学習できる場、地元住民との交流の場などの創出について検討します。

大学のキャンパスをいかす

- ・2つの大学の立地をいかし、キャンパスと地域が相互に空間を提供しあい、学生と地域住民など様々な人の交流を進め、相互に活力を高めあう仕組みづくりを検討します。

自然環境や景観、農地をいかす

- ・本市の貴重な資源である西部丘陵地の自然環境や景観、農地などは、様々な角度から地域の活性化につながるよう検討します。

地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、「様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組み」であり「地域自らが行う」ことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

例1：自然資産を広くアピール

本市で最も貴重な自然資産を広域に向けてアピールし、地域活性化に役立てることが望めます。

例えば、市内外から里山に愛着をもつ方が集まって古民家や谷戸田の保存、散策ルートの整備と管理などを検討することが考えられます。

アピールの方法や組織形態、活動内容や運営方法などが重要となりますが、地域住民や大学が主体となり、市と研究しながら詳細を詰めていくといった方法があります。



里山と道祖神



吉沢・土屋線

例2：自分たちのバスの運行

主な施設間の距離が長いため、交通手段の選択に乏しい高齢者や子どもの移動が難しくなっています。

例えば、地域で組織化を行い市の支援のもとに運行プランを作成し、事業所などの協力を得て車両を確保し地域主体で運行します。運転士も自分たちで確保し交代で運転を行います。

自分たちのバスとすることを通じて、地域社会の維持と交流に寄与することが期待されます。

例3：3者交流による地域活性化

西部地域の活性化のため、地域内にある2つの大学を積極的にいかすことが望めます。

このため地域住民・農業従事者・大学の3者が、地域の活性化のため勉強会を行い、プランを作成し、そのプランに基づき、様々な事業や活動を行うことが考えられます。学生の参加を促すことが良いでしょう。

大学がもつ専門知識や学生の柔軟な発想力や行動力と、地域住民の知恵や地域資源を融合させた、活力ある工夫による活性化が期待されます。



地域について住民同士で検討